

(37) 10種類の慢性疾患に対するアーユルヴェーダの治療に関する予備的研究

文献名

Netherlands Magazine of Integrated Science, Vol. 5, No. 35, pp. 586-594, 1989.

著者

G.W.H.M. Janssen, MD.

実施場所

Maharishi Ayurvedaa Health Centre, Laag Soeren, The Netherlands

要約

1987年9月から1988年1月まで、以下の疾患に対するアーユルヴェーダ治療の有効性に関する予備調査研究が、Laag Soerenにあるアーユルヴェーダ健康センターの中で行なわれた。

- ・慢性関節リウマチ
- ・気管支喘息
- ・慢性の気管支炎
- ・湿疹
- ・乾癬
- ・高血圧症
- ・慢性の便秘
- ・頭痛
- ・慢性の副鼻腔炎
- ・インスリン非依存性糖尿病

合計126人の患者が治療を完了した。それは、食事、アーユルヴェーダ薬草混合物の投与と毎日の規則的な生活によるものである。患者はさらに以下の治療処置を利用する機会を持った。：意識の開発用の生理学の浄化治療、神経と筋肉の統合治療、つぼ治療、および瞑想。

126人の患者のうち、100人(79%)に改善が見られ、17人(14%)は変化せず、また9人(7%)には症状の悪化が見られた。大多数の10の症状には、有意なあるいはきわめて有意な改善が見られた。：慢性関節リウマチ($p=0.04$)、気管支喘息($p=0.09$)、湿疹($p=0.03$)、高血圧症(最低血圧、 $p=0.07$)、慢性の便秘($p<0.0001$)、頭痛($p=0.0001$)、慢性の副鼻腔炎($p=0.01$)。また、以下の疾病では、予見された結果を示した。：慢性の気管支炎($p=0.11$)、乾癬($p=0.19$)、糖尿病($p=0.13$)、高血圧症(最大血圧、 $p=0.12$)

この研究中、10の疾病は治癒できると宣言できるにちがいない。家庭医が治療の専門家によって薬物治療を処方されていた35人のうち、14人(40%)はそれらの服用量を減らし、あるいは使用を止めることができた。患者の95%が、アーユルヴェーダ薬草混合物を副作用無く受け入れることができた。

この研究によって、アーユルヴェーダ治療法は、前述の10のうち7つの疾病において、数年間患っていても比較的短期間で実質的な改善をもたらすという結論を得ることが出来た。また、この治療方法が、他の治療方法と問題なく併用できることが分かった。

慢性病やこれらの疾病を西洋医学で治療した結果生じた多くの患者の苦しみを考えるとき、またその有効性、有害な副作用の少なさ、アーユルヴェーダ治療の比較的低コストなことなどを考えれば、アーユルヴェーダの

直接応用が正当で望ましく、この治療形式についてのよりいっそうの研究が最優先事項となるべきことは、この研究の結果から明らかである。